

事業所の概要表

(令和 3年 5月 31日現在)

事業所名	グループホーム 楽生苑					
法人名	有限会社エンジョイライフ					
所在地	愛媛県大洲市松尾465番地1					
電話番号	0893-57-6150					
FAX番号	0893-57-6151					
HPアドレス	http://www.enjoylife-care.jp					
開設年月日	平成 26 年 4 月 1 日					
建物構造	<input checked="" type="checkbox"/> 木造 <input type="checkbox"/> 鉄骨 <input type="checkbox"/> 鉄筋 <input type="checkbox"/> 平屋 (2) 階建て (2) 階部分					
併設事業所の有無	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 (小規模多機能型居宅介護・有料老人ホーム)					
ユニット数	1 ユニット	利用定員数	9 人			
利用者人数	9 名 (男性 3 人 女性 6 人)					
要介護度	要支援2	0 名	要介護1	0 名	要介護2	1 名
	要介護3	1 名	要介護4	5 名	要介護5	2 名
職員の勤続年数	1年未満	4 人	1~3年未満	2 人	3~5年未満	人
	5~10年未満	3 人	10年以上	人		
介護職の取得資格等	介護支援専門員 1 人		介護福祉士 7 人			
	その他 (初任者研修)					
看護職員の配置	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 (<input type="checkbox"/> 直接雇用 <input checked="" type="checkbox"/> 医療機関又は訪問看護ステーションとの契約)					
協力医療機関名	石川内科					
看取りの体制 (開設時から)	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 (看取り人数: 0 人)					
利用料金等(介護保険自己負担分を除く)						
家賃(月額)	35,000 円					
敷金の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 円					
保証金の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 円		償却の有無 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有			
食材料費	1日当たり	1,500 円	朝食:	350 円	昼食:	600 円
	おやつ:	円	夕食:	550 円		
食事の提供方法	<input checked="" type="checkbox"/> 事業所で調理 <input type="checkbox"/> 他施設等で調理 <input type="checkbox"/> 外注(配食等) <input type="checkbox"/> その他 ()					
その他の費用	水道光熱費	10,000 円				
	管理費	5,000 円				
		円				
		円				

家族会の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 (開催回数: 0 回) ※過去1年間		
広報紙等の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 (発行回数: 0 回) ※過去1年間		
過去1年間の運営推進会議の状況	開催回数	0 回 ※過去1年間	
	参加メンバー ※□にチェック	<input type="checkbox"/> 市町担当者 <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター職員 <input type="checkbox"/> 評価機関関係者 <input type="checkbox"/> 民生委員 <input type="checkbox"/> 自治会・町内会関係者 <input type="checkbox"/> 近隣の住民 <input type="checkbox"/> 利用者 <input type="checkbox"/> 法人外他事業所職員 <input type="checkbox"/> 家族等 <input type="checkbox"/> その他 (婦人会、公民館館長、区長)	

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

- (1) ケアマネジメント
- (2) 日々の支援
- (3) 生活環境づくり
- (4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ職員みんなで自己評価!
ステップ外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

新型コロナウイルス感染防止対策を十分おこない
訪問調査を実施しております

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	令和3年6月23日

【アンケート協力数】※評価機関記入

令和3年3月16日 集計

家族アンケート	(回答数)	6	(依頼数)	9
地域アンケート	(回答数)	5		

※アンケート結果は加重平均で値を出し記号化しています。(◎=1 ○=2 △=3 ×=4)

※事業所記入

事業所番号	3890700077
事業所名	グループホーム 楽生苑
(ユニット名)	
記入者(管理者)	
氏名	中田 大輝
自己評価作成日	令和3年5月31日

<p>【事業所理念】※事業所記入 笑顔 慈愛 共に楽しく生きる</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】※事業所記入 ・本人の思い、暮らし方の希望・意向について把握や共有化を行う。介護記録に分かりやすくボーダーライン引き、またアセスメントシートにも記録を残す。目標計画を実施することで把握・共有はでき、限られた情報収集ではあったが多少介護計画に生かすこともできた。現在の入居様は重介護で高齢でもあり、また意思疎通も困難で思いを汲み取る場面も少なかったこともあり、わずかな成果ではあったが、把握をするツールとしては今後も取り組んでいく。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 天気の良い日には、ほぼ毎日、事業所の敷地に出て、ひなたぼっこをしたり、景色を眺めたりできるよう支援している。 誕生日会の写真を家族に送付している。今年6月よりオンラインで面会を採り入れており、現在1組の家族が利用している。 昨年9月、地域清掃に管理者と職員が参加した際には、事業所の軽トラックや草刈り機を出して協力した。 運営推進会議の書面会議録は、管理者が会議メンバー（区長、婦人会メンバー、民生委員など）を訪ねて手渡している。11月には婦人会の方が花を植えたプランターを持ってきてくれた。</p>
--	---	---

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
I. その人らしい暮らしを支える										
(1) ケアマネジメント										
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	△	介護記録に残し把握できるようにボーダーラインを引いている。思いを汲み取れる場面が限られている。	◎		○	入居時に聞き取った情報は、フェースシートの本人・家族の希望欄に記入している。	
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	△	困難な方や失語症の方は、ジェスチャーや仕草や表情から把握し検討している。本人の立場に立った援助をしている。				日々の中で知り得た本人の希望や要望は、介護経過記録に記入して蛍光ペンでラインを引いておき、3か月1回、アセスメントシートの暮らし方の希望・意向欄にまとめている。	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	△	新型コロナウイルスによる感染拡大防止のため、電話での聞きとりをしている。					
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	介護記録に把握できるようにボーダーラインは引いき、アセスメントシートに残し共有化した。					
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないよう留意している。	○	本人の発した言葉を記録することにより、本人の思いを気づくようになっている。朝の申し送りや話し合い見落としがないよう努めている。					
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	△	ご家族と電話を通して話したり、会話を通して本人から聞いている。			○	入居時、本人・家族から、生活歴、趣味、楽しみ、特技などを聞いて、フェースシートに記入している。その後聞いた情報は、手書きで追加しておき、更新している。	
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなど等)等の現状の把握に努めている。	○	普段の関わりと見直し時に確認して把握に努めている。					
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	本人の日常生活を把握して、居心地の良い環境作りを行い、職員間の伝達をしている。					
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかり等)	○	ご本人が不安や不安定という状態が生じた際は、解決に向けて会議時に話し合う。					
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	介護記録、日報、排泄記録等に状態を記入して、申し送り共有するようにしている。					
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	△	把握した情報で職員だけで検討している。本人をよく知る関係者等は参加できていない。			○	担当職員が作成したアセスメントシートをもとに、ケアカンファレンス(職員のみ)で話し合い検討している。	
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	会議でどんな支援が必要か話し合っている。					
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	△	情報不足で課題が明らかにならないこともあった。					
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	△	日々の会話や様子を把握しているが、全てが反映されているわけではない。					
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	ご本人、ご家族の意見や要望も聞きながら、介護計画に反映している。	○		○	理学療法士や医師のアドバイス、本人や家族の意向を踏まえて、介護計画を作成している。	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	本人の生活リズムを尊重して、その人らしく過ごせるように努めている。					
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	×	新型コロナウイルスの影響により、協力は難しい。					
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	毎回介護計画を確認しながら、介護記録を記入している。			○	3か月に1回のケアカンファレンス時に介護計画について話し合い、内容の把握・理解につなげている。	
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	△	支援に向けて活用できるように介護記録に介護計画について記入する欄を設けている。			○	介護経過記録にケアプラン記録欄を設け、介護計画の番号と実践できたかどうかを○×で記入している。	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	△	主にご本人の言葉を重点に個別に記録するようにしている。				○	介護経過記録に利用者の言葉、行動、身体状況などを記録している。
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	△	気づきについて記入するように努めているが、工夫・アイデア等に関しては、できていない。				△	口頭で、やりとりすることが多い。介護経過記録の気づき・工夫欄に記録しているが、情報量は少ない。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	3ヶ月定期的に見直しをしている。			○	管理者が責任を持って期間を管理しており、3か月に1回見直しを行っている。	
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	△	ケアカンファレンスで現状確認はしているが、変化があった方のみ見直す。			△	3か月に1回、管理者が評価表(モニタリング)を記入している。	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	変化が生じた際は、話し合いをして検討することとしている。			○	退院時など、状態変化が見られたら、話し合い見直しを行うが、この一年では事例はなかった。	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	月1回の業務カンファレンスや、朝・夕の申し送り話し合うこともある。			◎	月1回、業務カンファレンス(職員会議やケアカンファレンス、内部研修を含む)を行い、議事録を作成している。緊急案件があれば、朝・夕の申し送り時に話し合い、申し送りノートや業務用ノートに記入している。	
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	会議はそれぞれの思いや考えを活発に意見交換でき、相談も交えながら話しやすい雰囲気である。					
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	多くの職員が参加できるように日時を早めに決め、集中して話し合いができる夜間帯にしている。					
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	会議録を全職員目を通して、確認したらサインするようにしている。			◎	職員全員が、業務カンファレンス議事録の内容を確認し、押印するしくみをつくっている。管理者が印が揃ったことを確認している。	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	◎	申し送りノート、業務ノートを活用して情報共有している。			◎	利用者のその日の様子については、申し送りノート、伝達事項や医療、家族に関する内容については、業務ノートに記入して申し送っている。	
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	申し送りノート、日報を活用して、申し送りや職員間で情報を共有している。	○				
(2) 日々の支援										
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	把握には努めているが、全員が毎日となるとできていない。					
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	10時の水分補給、入浴の順番、着替え選び等、選択する機会をつくっている。			○	10時の水分補給の時間には、複数の飲み物を見せて、利用者が指差しなどで好きなものを選ぶ機会をつくらせている。着替え時は、自分で選べるように声かけしたり、一緒に選んだりして支援している。	
		c	利用者が思いや希望を表現するように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	△	意思表示が難しかったり、言えない方は、職員が声掛けして決めることもある。					
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング、長さ等)	△	ひとり一人のペースに合わせて支援に努めているが、時々安全を考慮して職員の都合を優先してしまっていることもある。					
		e	利用者の活き活きとした言動や表情(喜び・楽しみ・うらおい等)を引き出す言葉かけや雰囲気づくりをしている。	○	作業活動時「ありがとう」と労いの言葉をかけ、本人が好きなことであるパズルや散歩等に付き添い、共に楽しむ雰囲気作りをしている。				○	併設施設を利用する友人に会いに行くことを、介護計画に採り入れ支援している事例がある。
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるように支援している。	△	ジェスチャーを理解し努め表情や反応を観察して、意向に沿った支援をしている。思いがつかめないこともある。					
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	プライバシー保護について内部研修を実施した。言葉かけや態度等を改めて振り返り、取り組んでいる。	○	◎	○	内部研修を実施しており、昨年7月には接客、今年2月にはプライバシー保護について勉強している。法人の方針で、朝の申し送り時に理念を唱和することを継続している。	
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声をかけないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉かけや対応を行っている。	○	利用者に敬意を払い、丁寧な声かけを心掛けている。羞恥心等にも気をつけ配慮している。				評価困難 新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	◎	不必要な露出に気をつけたり、場面によってはタオル使用して配慮している。					
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	訪室時は、ノックや声掛けをしてから入ったり、退室時はドアを閉めるように心掛けている。				評価困難 新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	内部研修を実施して、改めて振り返り理解して取り組んでいる。					
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	手伝いをしていただいた際は、感謝の気持ちを伝えていく。					
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	自然体な生活を大切に、ご利用者が支え合っている時は見守りをする。					
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらつ場面をつくる等)	○	日々の生活で気持ちや関係性を把握し、席に配慮している。一緒に作業活動したりテレビを見て過ごしている。			○	利用者の希望や利用者同士の相性を踏まえて席順を決めている。話しがしやすいように、とりに席を設けたり、職員が間に入って話が弾むようにしたりして支援している。	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	職員が仲介に入って、お互いの不安が軽減できるよう努めている。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	△	フェースシートを活用したり、普段の会話やご家族から知ることはできるが、人間関係を具体的には把握できていないこともある。				実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	△	地域や馴染みの場所など、把握できていないことが多い。					
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	馴染みの場所や人に会いに行くのは、ほとんどできていない。隣接している施設の知人へ会いに行かれる方がいる。					
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	馴染みの人が訪れた時は、居室でゆっくり過ごせるように椅子やお茶を出していた。現在は新型コロナウイルス感染防止のため面会禁止。					
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	新型コロナウイルス感染防止のため、外出支援は控えている。敷地内で外気浴支援をしている。	△	○	○	天気の良い日には、ほぼ毎日、事業所の敷地に出て、ひなたぼっこをしたり、景色を眺めたりできるように支援している。	
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	機会がなくていけない。					
		c	重度の利用者も戸外で気持ちよく過ごせるよう取り組んでいる。	○	その日の状態に合わせて重度の方も気分転換に外気浴を支援している。			○		車いすの利用者も同じように支援している。
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	×	新型コロナウイルス感染防止のため、できていない。					
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	行動・心理症状について理解している。変化や症状について職員間で話し合い取り組んでいる。				車いすを自走する利用者が居間から居室に移動する際には、それとなくついていき、ベッドへの移乗など必要時のみ支援している。	
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上を図れるよう取り組んでいる。	○	日常生活の中で本人ができることは見守り、もしくは一緒にお手伝いして支援している。状態によっては他職種のリハビリを取り入れたりもしている。					
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	作業活動、体操、食事の自力摂取等、できることは見守りしている。		○	○		
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	楽しみごとや役割等を把握して職員間で共有している。				毎日、翌日の献立をホワイトボードに書く、エプロンたたみやおしぼり巻き、洗濯たたみをすす利用者がいる。今年の4月には、ベランダで桜を見ながらお花見弁当を食べるような機会をつくった。	
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごすように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	パズルや散歩が楽しみだったり、洗濯物たたみやエプロンたたみ等の役割をもち生活している。	△	○	○		
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	地域との関わりがないため支援に至っていない。					
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つとらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	ご本人の好みを把握してその人らしく年齢にも合った身だしなみやおしゃれができるように支援している。				評価 新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立入りや入りを中止したため評価はできない。	
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	洋服を選んでもらったり、カバンやタオルを持ち歩いたり、毎日自分で化粧したりしている。					
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	身につけているものから、どれが良いのか考えながら、ご本人が選択できるように支援している。					
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	季節に合わせて服装を変えている。ご家族から届いた衣類をご本人に伝え着用されることもある。					
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできたりけなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	食べこぼしや、口の周囲の汚れは、おしぼりやタオル等を利用して、会話の中でさりげなくするようにしている。着衣も乱れていたら整えている。	○	○			
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	×	1ヶ月に1度理容店の訪問時に利用している。望む店に行くことはできていない。					
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	その人らしさを大切に毎日洋服を着替えたり、髭をそっている。			○		重度の利用者も朝、夕に着替えを支援している。

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	食事は生活の中で楽しみの一つでもあり大切にしている。				法人の厨房から食事が届く。利用者が買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等に関わることはほばない。 春にはつくしやたけのこなどの食材を探り入れたメニューが並んだようだが、調査訪問時に確認した献立表からは季節感や昔なつかしいものを採り入れた献立はみられなかった。 新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。 新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。 「食べることが好き」と言われる利用者には、食事前に献立を話題にして話したりしている。 職員が厨房の職員と食事形態などについて話すようなことはあるが、定期的な話し合いの機会や栄養士にアドバイスを受ける機会は持っていない。	
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	×	新型コロナウイルス感染防止のため、実施していない。			×		
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	△	現在は調理、盛り付け等の手伝いができる方はいない。					
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	現在アレルギーある方はいない。好き嫌いも把握して、苦手な物は代用して対応している。					
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	ご本人の苦手な物は、代わりの物を提供したり、旬の食材を利用するような工夫をしている。			△		
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法とつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	その人の咀嚼・嚥下の力を把握して提供している。色どりや盛り付けにも気をつけている。					
		g	茶碗や湯飲み、箸等を使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	その人に合った持ちやすさだったり、使いやすい物を選んだり、一人一人違ったコップや箸を使用している。					評価困難
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	職員一人一人がテーブルに分かれて一緒に食事をしていたが、新型コロナウイルス感染防止のため、利用者食事が終了後、職員は個別で食べている。					評価困難
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	食事のメニューをお伝えしたり、音楽を流して、雰囲気作りをしている。	◎				○
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	ひとり一人の体調や身体状態に合わせて調整したり、水分は記録に残すようにしている。					
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	食事がすすまない方には御飯にふりかけをかけたたりする。お茶の代わりにジュースにしたり、栄養剤を処方している方もいる。					
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	△	献立は厨房職員が決めている。食事に関しては検査簿を書いたり、厨房職員と話さこともある。					△
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	用具や厨房全体の消毒を毎日実施している。					
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	口腔ケアの必要性、重要性について周知している。				口腔ケア時の目視にとどまっている。異常があれば受診につなげている。	
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	△	口腔ケア時に観察している。			△		
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	×	過去に歯科医より指導していただいたが、1年間では学べていない。					
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	夕食後は義歯を預かる。週1回消毒洗浄している。					
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	歯磨き粉を使用して自力で磨いたり、うがいのみされたりとその人の力に合わせて支援している。					評価困難
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	○	不具合が生じた際は、歯科医に依頼して訪問していただく。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	ご利用者の心身について理解し、自尊心を傷つけないように声掛けしている。				業務カンファレンスや朝・夕の申し送り時に話し合っている。 ○ おむつとパッドを使用する利用者について、「夜間、尿量が多く、おむつや衣類の交換などの回数が多いので安眠できていないのではないか」という意見があり、パッドサイズの変更などを検討した事例がある。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	運動をしたり水分摂取に気をつけている。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	チェック表を利用したり、普段の動きをみて把握している。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	難しい方もご本人訴えで二人介助でトイレに座るようにしている。パッドの大きさと尿量に合わせて失禁の原因となっていて、みんなで検討して見直した。	◎			
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	医師や看護師と相談しながら取り組んでいる。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	兆候がみられるご利用者は、早めに声掛けして誘導している。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	ご本人によって選択するのは、難しいのが現状であり、ご家族と話し合うことが多い。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	時間や尿量に合わせて、昼夜でパッドを切り替え正しい使い方で支援している。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じた便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	△	毎日のリハビリ体操や、歩行運動後のトイレ誘導、腹部マッサージ、牛乳やヨーグルト摂取をして働きかけているも、薬に頼っていることもある。				
		20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	△	週2回の午前中と決めてしまっている。入浴の順番や午後からと希望がある方にも対応している。	◎	
b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。			○	ひとり一人お湯を入れ替えて、家庭用の浴槽にゆっくり入浴している。冬至にはゆず湯実施した。				
c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。			○	ご本人ができるところは洗っていただく。重度の方にも安心して入浴できるように二人介助することもある。				
d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。			○	入浴したくない時は、時間を空けたり日付を変更する。				
e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。			○	バイタルチェックをして確認している。入浴後は水分補給促している。				
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	毎日の記録や申し送りで把握している。				現在、2名の利用者が薬剤を服用している。往診時には、日中・夜間の様子を報告して、相談しながら支援している。 ○ 服用の有無に関わらず、一日5~10分程度、ひなたぼっこ時間をつくり、安眠につなげている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	△	日中帯にレクリエーションや体操等を行い、活動性をあげている。				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	日中の過ごし方を検討し、医師とも相談して支援している。				
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	座りっぱなしにならないよう状態に合わせて、昼寝やご本人の希望時に休息している。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	本人の訴えがある時は、電話をしたりしている。				△
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	本人が家族に「会いたい」と訴えあり、電話促しかけたことある。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	訴えがあればスムーズに誘導して、いつでも電話かけられるようにしている。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	届いた手紙や郵便物は、すぐにご本人に手渡ししている。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力してもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	協力を得てご家族から電話をかけてくれる方もいる。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと			
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	財布を所持していただくことで、安心して生活している。				/			
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につけている。	×	新型コロナウイルス感染防止のため、買い物外出できていない。							
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	買い物の頻度が少ないので、理解や協力は得ていない。							
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	家族と本人の要望もあり所持している方がいる。							
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	ご本人とご家族と話し合ったうえで支援している。							
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	管理が困難な方は、立替え払いして買い物している。							
24	多様なニーズに応える取り組み	a	本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	△	外出支援等できる体制にはしているが、1年間ではなかった。	◎		○	新型コロナウイルス感染対策に伴い、家族が用意していた利用者の嗜好品について、職員が代行で支援している事例がある。			
(3) 生活環境づくり												
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮	a	利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	玄関先に季節の花を置いたり、夏にはグリーンカーテンをして親しみやすくしている。	◎	◎		○	評価 新型コロナウイルス感染症対策に伴い、玄関の立ち入りを中止したため評価はできない。		
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を持っており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住みやすい心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気やそっくりな装飾になっていないか等。)	○	日めくりカレンダーを設置。廊下には、作品や出来事をまとめた物を掲示している。	◎		○	○	評価 新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。		
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	フロアには気持ちのよい光が入ってくる。毎日床を消毒して拭いている。					○	評価 新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節を感じるような飾り物を作成してフロアや居室入り口に掲示している。						○	評価 新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	集まって話しやすいテーブルや個別のテーブル、少し離れたソファ等、くつろいで過ごせるようにしている。							
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	○	見えにくい場所であり、入ったら戸を閉め羞恥心に気をつけている。							
27	居心地良く過ごせる居室の配慮	a	本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	収納ケース、ぬいぐるみ、布団、テレビ、造形等、希望の物を持ってきていただき、ゆったり過ごせるようにしている。	◎				○	評価 新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。	
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	本人が分かるように居室入口にはネームプレート利用、トイレドアに「便所」と貼り紙をして分かりやすくしている。					○	評価 新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。	
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	内服薬の飲み忘れに不安がある方は、飲み終えた袋を入れる箱を作り、使用することにより安心している。							
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	新聞、ティッシュ、虫眼鏡、バズル、白湯等、自由に取れるようにしている。							
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態に暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	◎	◎ 玄関の施錠はせず、いつでも出入りができるようにしている。	◎	◎	◎		◎	併設施設と共有の1階玄関、2階事業所の出入口は施錠せず、自由に出入りできるようにしている。身体拘束や虐待に関する内部研修で鍵をかけることの弊害について学んでいる。	
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	鍵をかけず自由に生活していただくことをご家族に理解してもらっている。							
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	◎ 玄関にはチャイムがついている。フロアに出入口があるため、外出の察知がしやすい。							
(4) 健康を維持するための支援												
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	◎ カルテや薬剤情報を見たり申し送りして把握している。						/	
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	◎ 日報や個人記録に記入して、職員間で情報共有できるようにしている。							
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	◎ 訪問時やいつでも電話相談できる関係を築いている。							

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	希望時は、かかりつけ医と相談してから受診できている。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	希望に応じて受診や医療を受けられている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	受診後は、ご家族に結果報告するようにしている。場合によっては、かかりつけ医から報告や話し合うこともある。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	情報提供書を作成して、入院先に情報を提供している。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	随時情報交換を行い、ご利用者本位の話し合いをして早期に退院することもある。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	△	入院はかかりつけ医を通して行っている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	1週間に1回訪問看護師に来て頂き、2時間ほど滞在され話し合いながら取り組んでいる。報告書も届く。隣接している事業所の看護師にも相談している。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	かかりつけ医、訪問看護師ともに24時間体制となっている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	毎日FAXで状態報告して、状態変化に応じて早めに報告や相談をして指示を仰いで対応している。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	ひとり一人の薬剤情報に目を通して理解している。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	内服薬の準備や服用直前は、必ず職員二人で声に出して確認してから行っている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	内服薬の変更時に気をつけている。日頃から心身の状態を観察して職員間で情報共有している。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	情報提供して相談しながら、服薬を変更し、その人に合った支援をしている。				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	△	状態に応じて話し合い意向を確認している。				状態変化時には、家族や医療機関と話し合いの場を持ち、方針を共有しているが、この一年間では看と支援の事例はなかった。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者と話し合い、方針を共有している。	○	重度化時には、かかりつけ医や訪問看護師も交え、随時集まって話し合い方針を決めている。	○		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々の職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	現在の職員で対応できると把握している。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	△	状態によって話し合いをして理解を得ている。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	△	医療関係者と話し合い取りがける体制を整えて準備している。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	△	ご家族の思いを聞いて、希望に沿って支援している。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癩、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	△	内部研修で感染症について学んでいる。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	△	予防や対応については把握しているが、日頃からの訓練はできていない。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	感染症についての情報を入手して、予防や発生時の対応について検討している。				
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	情報収集に努め状況把握して準備している。				
		e	職員は手洗いとうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	検温、手洗い、うがい、手指消毒を実施。洗面台に手洗手順を掲示。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	ご家族と相談したり、支援についてお願いして、共に支えるようにしている。				評価 新型コロナウイルス感染症対策期間のため評価は困難でない。 約一年間、楽生苑だよりの発行を休止していたが、今年6月より再開した。管理者が家族に電話する用事がある時には、日常の様子を伝えている。誕生日会の写真を家族に送付している。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(茶やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	訪問時はお茶を出したり、居室で一緒に食事されたり、過ごしやすいうように対応している。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	×	新型コロナウイルス感染症防止のため面会禁止、場面や機会はない。	○			
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(たよりの発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	△	お便りの発行はできていない。	○			
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	△	電話で報告するようにしている。ご意見等も併せて聞いている。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	ご自宅でのことや昔の話を聞いて、理解を深めている。現在の認知面について説明して理解していただいている。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	×	現在お便りを発行しておらずできていない。	△	△	運営推進会議や6月より再開した楽生苑だよりにて行事について報告をしている。設備改修や機器の導入については報告していない。	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	×	新型コロナウイルス感染症防止のため、交流を図った行事ことができていない。				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	リスクがある場合は対応策を検討し、了承を得たり協力して頂いている。				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	△	新型コロナウイルス感染拡大の影響により、現在は電話でのみの対応である。			新型コロナウイルス感染症対策に伴い、家族の面会を中止している。今年6月よりオンラインで面会を探り入れており、現在1組の家族が利用している。楽生苑だよりの最後に、「ご意見ご要望ご気軽にご連絡ください」と記載している。	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	説明を行い納得されたうえで、契約を交わしている。				/
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	入居時に退居についても説明している。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	契約時に説明して同意を得ている。				
III. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域、事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	設立段階から地域の人に説明して、事業所の理解を図っている。		◎		昨年9月、地域清掃に管理者と職員が参加した際には、事業所の軽トラックや草刈り機を出して協力した。運営推進会議の書面会議録は、管理者が会議メンバー(区長、婦人会メンバー、民生委員など)を訪ねて手渡ししている。11月には婦人会の方が花を植えたプランターを持ってきてくれた。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	×	新型コロナウイルスの影響により、地域との行事ごとや交流がなく関わりができていない。		○		
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	運営推進委員や婦人会の方々に理解は得ているが、関わりがない。				
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	×	新型コロナウイルス感染症防止のため、地域との接触がない。				
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	×	新型コロナウイルス感染症防止のため、現在ははない。				
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	×	新型コロナウイルス感染症防止のため、現在ははない。				
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	×	新型コロナウイルス感染症防止のため、現在ははない。				
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を深げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	△	月1回理容店の方に訪問して頂いている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人の参加がある。	×	新型コロナウイルス感染防止のため、運営推進会議を開催できていない。	○		○	この一年は書面会議を行っている。 運営推進会議(書面会議)で活動報告や研修などについて報告を行っているが、評価への取り組み状況については報告していない。 意見や提案は出ておらず、取り組みに活かしたり、結果を報告したりは行っていない。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	×	新型コロナウイルス感染防止のため、運営推進会議を開催できていない。			△	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	×	新型コロナウイルス感染防止のため、運営推進会議を開催できていない。		◎	×	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	△	開催していた時は、出席しやすい昼間の時間帯にしている。テーマによってメンバーは変更していない。			○	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	誰でもみられるように棟内に置いている。				
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	◎	フロアに理念を掲げている。毎朝申し送り時、理念を唱和している。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	お便りの表紙に記載して認識して頂いていたが、お便りを発行できていないので伝わりにくいかもかもしれない。	○	○		
42	職員を育てる取組み ※文言の説明 代表者:基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	事業所の費用負担もあり、内外の研修を受けるようにしている。				職員の家庭の事情等も考慮して、希望日に休みがとれるようにしている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	△	内部研修年間計画を立て実施しているが、新型コロナウイルス感染防止のため、開催頻度が減っている。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	△	代表者は話しやすく職員の声を聞いて、職場環境・条件の整備に努めている。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワーキングづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	×	新型コロナウイルス感染防止のため、事業所外との関わりが少ない。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	×	新型コロナウイルスの影響により、自粛協力していただき、親睦会もできず変わった取り組みはない。	○	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	年に2回内部研修を実施して理解を深めている。				昨年10月、今年3月の内部研修で学んでおり、行為を発見した場合の具体的な対応についても管理者から伝えている。 行為を発見した場合に、職員は管理者に報告することと認識している。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	申し送りや会議の時に話し合いをしてケアの見直ししている。				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	普段の声掛けや身体の傷等も確認して注意している。			○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	ご利用者への声掛けや対応を一緒に考えて注意している。				
44	身体拘束をしないケアの取組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	年に2回内部研修を実施して理解を深めている。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	内部研修や会議の中で話し合うこともある。				
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	拘束の要望や拘束をした事例はない。もし要望があったり、緊急やむを得ない場合は話し合うことにしている。				
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	×	理解できていない。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	×	事例がない。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	×	該当者がいない。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	対応マニュアルを作成している。各自周知している。				実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	×	訓練を定期的に行っていない。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	報告書にまとめて対応策も記入して、目を通したら確認印も押すようになっている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	会議や申し送り等でリスクについて話し合い検討している。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	△	苦情対応マニュアルは作成しているが、適宜対応方法については検討していない。				実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	場合によっては、市へも報告するようにしている。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	速やかに回答して解決し、信頼関係を築くように努めている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつづけている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に聞く機会等)	△	個別で聞いたり、要望に合わせて、代表者や管理者が聞いている。			△	個別に訊いているようだが、運営に関する意見はほとんどないようだ。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつづけている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に聞く機会等)	△	新型コロナウイルス感染防止のため面会は禁止。電話での対応となっている。	◎		△	電話や来訪時に管理者が何か意見はないか訊いているが、意見はほとんどないようだ。
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	△	苦情や相談があった際に対応するようにしている。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつづけている。	△	職員から聞く要望を聞いていただく。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	職員からの意見や提案が活発にあり、共に支援について検討し取り組んでいる。				○
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	サービス評価について説明行い理解した上で、ひとり一人に評価表を配り、考えながら記入してもらい取り組んでいる。				評価への取り組み状況についてはこの一年では、報告していない。モニターはしてもらっていない。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	職員で今までの取り組みを見つめ直す良い機会となっている。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	みんなが一丸となって達成できる目標を立てて取り組んでいる。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	運営推進委員の方々、市町、ご家族に報告して、ご助言、ご意見を踏まえ取り組んでいる。モニターはできていない。	○	○	×	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	事業所内と運営推進会議で成果を伝えている。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	△	対応マニュアルを作成している。				昨年の10月に原子力防災訓練、今年3月に避難訓練を職員と利用者のみで行っている。運営推進会議の書面会議で避難訓練実施の報告を行っているが、さらに、地域との協力支援体制確保への取り組みもすすめてほしい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	△	新型コロナウイルス感染防止のため、訓練回数は減っている。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	定期的に点検している。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	新型コロナウイルス感染防止のため、外部と連携をとった訓練はできていない。	△	○	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	×	新型コロナウイルスの影響により、例年の地域防災訓練が実施されておらずできていない。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自 己 評 価	判 断 し た 理 由 ・ 根 拠	家 族 評 価	地 域 評 価	外 部 評 価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	×	× 取り組めていない。				相談支援を行うような取り組みは行っていない。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	×	× 機会がなく相談支援はできていない。		△	×	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	× 取り組めていない。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	× ボランティアの受け入れをしていない。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	×	× 取り組めていない。			×	